慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	配給組織存在の理由に関する新説
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.10 (1923. 12) ,p.1666(56)- 1710(100)
JaLC DOI	10.14991/001.19231214-0056
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19231214-0056

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

配給組織存在の理由に關する新說

向井鹿松

本論文は本誌第十七卷第六號に於て發表した余の論文「配給組織構成要素を論ず」に續くもので「社會的勞働組織としての配給組織」の其二をなすものである。而して先づ第一に配給組織の構成要素を論じた理由は第一、之によつて財貨の社會的配給に必要なる職分の何たるやを知らんが爲めである。第二今日の複雜なる配給組織は此の職分を行はんが爲に歷史的に發達した結果たるが故である。第三今日多額に上る配給費用は配給に必要なる之等の職分を行はんが爲めの費用であるからである。而して其際余は配給組織構成の要素（配給上の職分）として次の如き結論に到達した。

配給組織構成要素
- A、需供仲介に關する行爲
  - （一）財貨の觀念を通達する行爲
  - （二）需要創造行爲
  - （三）供給調節行爲
  - （四）需給合致行爲
  - （イ）需供合致の純技術的行爲
  - （ロ）供給創造行爲
- B、資本の提供及び之に關する行爲
  - （一）資本の提供及び其管理
    - （イ）設備資本
    - （ロ）回轉資本
  - （二）危險の負擔

以下本文に於て述べんとする所は、現代に於ける複雜なる配給組織は過去に於ける生產組織と消費中樞の變化に伴ひて起つた生產消費の分量上の矛盾を調和せんがために發達して來た歷史的の產物である故に、現代の生產及び消費組織に變化を加へざる限り此原則を無視して配給組織の改造を試むるは無意義、不可能のことなるを論證せんとするにある。

從來學者が配給組織の存在の理由を說明せんとするや、分業の理を以てするのが普通である。尤も學者が分業の字を用ふる時に如何なる意義を以てするや明かでないけれども若し一般に學者の解するやうに分業は勞働の性質又は職分により業を分つものとすれば世人の問題とする配給上の直系組織は決してかかる理によつて說明せらるゝものではないのである。是れ則ち左に述ぶる私見を以て新說と題する妄を敢てした所以である。又本論文は固と「社會的勞働組織としての配給組織」の一部であるからして以下述べる所も亦本題の「配給組織存在の理由以外に及ぶは已むを得ない所で、讀者の諒を乞はねばならない所である。

一

現代經濟組織の下に於て一つの財貨を生產者より消費者に移動せしむるを其職とする經濟機關は必ずや上述せる凡ての配給上の職分を行ふ必要があるのである。然らば現代經濟社會に於てかかる財貨の社會的配給を擔當する經濟機關は何である。此等の機關は如何なる原則に基きて一の配給組織をなしつゝある

か、之を知らんが爲めには吾人は先づ古代の商業の如何なるものなりしやを知るの必要がある。蓋し今日の組織は一の歴史的産物に外ならないからである。

古代に於ける商人は荷車牛馬駱駝及船舶で一地方から他の地方、一種族から他種族、一海岸から他海岸へと渡り歩いたものである。彼等は卸商であり、小賣商であり、運送人であり、又商品の所有者であると共に更に危險の負擔者であつた。而して彼等は時に又藝術家たり、手工業者であつた。かの希臘の哲學者プレートが其埃及滯在中石油を商ひて生活の資を得てゐたことは人の知る所である。則ち今日に於ける樣な專業化した商業は昔時の人の知らなかつた所で、彼等は一人にして上述した凡ての商業上の職分を行つてゐたものである。則ち所謂 Jack of all trades であつた。否古代交換經濟の尙一般に普及しなかつた時代では商業丈を專業としてたのでは生活の資が得られない。換言すれば商業と云ふ仕事は一人の人の勞働に對して分量上不足してゐたのである。そこで彼等は他に出ては商人であると共に故郷にありては大地主であり、貴族であり、又或は酋長であつた。又屢々牧師たるこもあつた。則ち抑々初めての商業は凡て兼業 (Arbeitsvereining) の形式を取つてゐたものである。(1) 之を以て見れば當時の商人は前に述べ來つた配給上の職分を只一人で擔當行使してゐたのみならず、而も其仕事の分量の勞働に比し少ない爲めに他の業務の餘暇之を行つてゐたものである。而してかゝる機會に應じて行ふ機會商業 (Gelegenheitshandel) は單に古代に限らないので、尙中世に於ても盛んに行はれ、之が當時の歐洲の經濟生活に及ぼした影響は甚だ大なるものがあつたことである。又一年中の季節を見て商業を行ふ所謂季節商業 (Saisonhandel) は又中世農民が其農業の餘暇に行つてゐた所であつたと云ふ。

（註一）　K. Bücher, Entstehung der Volkswirtschaft, S. 277.

（註二）　Sombart, Der Moderne Kapitalismus. Bd. I. Teil 1., S. 116 f.

けれども商業が多少繁昌してくると商業丈でも生活の道が立つ、則ちかゝる兼營的商人の子孫、奴隷、船夫、其他の使用人は其貯蓄した資本を以て自己の計算で自から商業を營むやうになる。茲に於てか全然又は主として商業によりて生活する專門的の職業を生じ、又商人なる身分 (Kaufmannsstand) が發生するに到つたものである。（註）

（註）　Schmoller, Grundriss. I Teil, S. 356-359.

中世商人なる獨立の身分が生じた後でも尙彼等が一人にして卸商、小賣商、運送人、行商人、商品所有者、危險負擔者たりし點には何等の相違を來たさなかつた。Archbishop Aelfric の Colloqium に於ける商人の云つた "I enter my ship with my Merchandise and sell my thing" と云ふ言葉は當時の商人の狀態を一般的に說明せるものとして見られてゐる。則ち今日に於けるやうな複雜なる配給の組織は中世の初期には尙之を見ることが出來なかつたのである。（註）

（註）　Day, I. C., A History of commerce, pp 38-39

然らば凡ての商業上の職分を一人で行ふやうになつてから直ちに今日の組織が成立したかと云ふとそうではない。然らば今日の商業組織は如何にして發生して來たか、之を說明するに際し、便宜上其發展の順序によらないで、先づ商業の專業化 (Specialisation) から說明して行く。

二

交通、貨幣、信用等の取引は既に古くから商業より分離し、獨立の營業となつてゐたものであるが、商業が發達して來ると後に述ぶるやうに卸商と小賣商の區別を生じた。此區別が尤も早く行はれたのは英國で十六世紀、佛國では十七世紀頃である。而して其取引が益盛んとなると卸商及び小賣商は昔のやうにあらゆる貨物を取り扱ふことが出來ないで、漸次取扱ふ貨物の種類に從つて分裂し特定の貨物をのみ取り扱ふことを專業とするやうになる。シユモラーの云ふ所によれば歐州大陸では十六世紀から十九世紀の中葉にかけて到る處に卸賣商業の取扱ふ貨物が漸次專門化し。海港には原料及び製造貨物取扱の商人が出來、又穀物、石炭、小麥粉、絹絲布、棉花、綿布等の專業的卸商業が生じ、更に進んでは鐵商、書籍商すら出來たと。(一) 又ゾムバルト教授の云ふ所によると十八世紀の英國では既に原料取扱商として鐵、材木、石炭、羊毛、絹、革皮、穀物、穀類、油、煙草、ホップの各卸商が出來、製造品商業としてはバーミンガム金物、馬裝具、箍桶及び板、屠肉、家畜、綿絲、反物、絹布、絲、食料品等の各卸商の存在してゐたと。(二)

（註）　Schmoller, Grundriss, Teil I. S. 34.

（註）　Sombart, Der Moderne Kapitalismus Bd II. S. 539 f.

中世小賣商業は多く行商人の行ふ所で定住商は甚だ少なかつた。而して定住

商として小賣商業を行ふものは所謂萬屋で、其取扱商品は苟も小賣營業として取扱ひ得る凡ての商品を含んでゐた。而して此が商品の種類に從つて分裂し始めたのは大都市(倫敦、巴里)では十五世紀である。然らば最初此萬屋が分裂するに際しては如何なる原則に基いて一店舗に取扱ふ商品を分類したかと云ふと、それは主として各商品取扱の便宜如何と云ふ點であつた。則ち各商品の保管、賣却に際し取扱上相互に相容れない性質のものでなくて、同一の場所に收容することが出來、又同一の器具同一の設備で其用の足りるものであつた。此原則からして先づ商品が二大別せられて一店舗は只其中の一つに屬するものゝみを取扱ふやうになつて來た。則ち重量で賣る貨物と、尺度で賣る貨物の別是である。而して第三に起つた分類は數で賣る貨物(金物、荒物の如き)で、最後に表はれたものは古物の販賣であつた。其後商業の進歩は益々盛んで商店數は人口增加の比例以上に甚だしく增加し、各種の商店も出たのであるが然も其取扱商品の組み合せは以上の四原則に依つたものであつた。然るに近世の初めに於て之とは正に正反對の原則による取扱商品組み合せの原則が世に出づるに至つた。則ち從來は商店經營の便否からして一店舗に集めてゐた商品を、今度は需要者の便否からして各種商品を一店舗に集めることが世に出づるに至つた。則ち從來絹物類を取扱つた商店が其他の流行品を併せ陳列販賣したり、或は高貴、貴婦人の趣味嗜好を挑發する世界的珍奇の贅澤品を蒐集陳列したり、又家具類を賣却するものは家庭に備ふる器具裝飾等凡て家庭の必要品を陳列するが如き是である。讀者若し昔單に洋書のみを販賣してゐた丸善か文房具を賣り、紳士用雜貨(Herrenausstattung)を備へ、更にレーンコート迄賣却してゐるのを見る時は容易に取扱商品組み合せ方が從來の商品取扱本位から、需用本位消費者本位に移つてゐるのを看取することが出來るのである。

斯の如くして卸商の分裂に加へて小賣商亦各種の原則に從ひ取扱商店を分類蒐集して販賣する結果、昔一人が卸商、小賣商を兼ね、且つ、は數種の商品を取扱つてゐたものが今日では商品を異にするによつて經營が分たれ、多種の商店經營を生じたのである。現に一八八二年獨逸では十五種の商品商業を有するに過ぎなかつたが、一九〇七年には四十七種の多きに上り、今日最高度の卸商に在りては只一

定の品質又は番號の商品しか取扱はないものすら生ずるに到つたのである。（註）

（註）Grundriss der Sozialokonomik, Bd. V, I Teil, S. 62.

商業が其取扱商品の種類に從つて專業化するに到つた理由は極めて明白である。蓋し自給經濟棄れて交易が增加するや、一人の資本勞力を以てしては多種の商業を營む事が出來ないやうになつて來たばかりでなく、商品の鑑識、市場觀察、同種商品の取扱の便利等は益々商業の專業化を必要とするに到つたからである。（註）

（註）Schär, Handelsbetriebslehre 5 Aufl. S. 113.

玆に於てか商業は兼營時代より獨立時代を經過し漸やく近世に到つて分裂の時代に到達したものである。何れも皆交易經濟發達の爲めに商業の仕事が人の勞力に比し分量上大となつて來た結果に外ならないのである。而して其結果は單にそれ丈に止まらなかつたのである。けれども此現象を論ずる前に吾人は一應現代配給組織の分析的說明を試むる必要がある。

三

以上述べたやうな商業經營の取扱ふ貨物の種類による商業の分化は之等の財貨が一生產者の原料又は補助材料として相互補充貨物たる關係を有する場合、又は同一消費者の購入する所となると云ふ意味に於て相互相關聯し、同一配給組織の圈內に入るものであるけれども、配給費用の見地から見れば同一の配給組織に屬しないものである。故に配給費用と云ふ見地から見れば同一經營の取扱ふ商品の移動に參加する配給機關のみが同一配給組織に屬して、當該貨物の配給費を構成するものであると云はなければならぬ。只一商業が多種の商品を取扱ふ場合には凡て商品が全體として同經營の費用を負擔することは注意を要する所である。（註）

（註）Marshall, Industry and trade, p. 269-271.

一つの貨物の配給費を構成すると云ふ點からして貨物の移動に參加する配給機關の組織を區別すれば余は之を(一)直系組織と(二)傍系組織の二つに分つことが出來ると思ふ。直系組織とは多人數が消防桶又は煉瓦を他に移動するが如く商人が商品を一人の手から他人の手に渡す經過である。而して商品が其生產者か消費者の手に達する迄には五人十人又は十人以上の手を經る場合がある。而し

てMarshall教授は此際生産者に近き商業を上位として、消費者に近きものを下位と名づけてゐる。傍系組織とは商品が直系組織を通して場所的移動をなしつゝある際に傍らより其商品の移動に參加するものである。例へば銀行、保險、交通、通信、倉庫荷造等の業務の如き是である。而して直系組織に在る商業は必ずしも余が先に述べた配給上に於ける凡ての職分を行ふものではないけれど、然も需給仲介行爲中の(一)(二)及(三)を行ふを普通とし、例外はあるが資本上の危險を負擔するものである。傍系組織にあるものは以上の主要職分以外のもの特に純技術的行爲を行ふものが多い、けれども主要職分でも其の中のあるものも獨立營業として傍系に立つことがある。(註二)

（註一）Schär, Handelsbetriebslehre, S. 102

（註二）而して此の主要職分が傍系に立つ場合には直系組織に大なる變化を來たすことは後日本論文の結論として直接配給を論ずる際に之を說明する通りである。

配給機關は其直系組織に屬するとと、又傍系組織に屬するとを問はず、何れも等しく配給費を構成するものであるにも拘らず、獨り直系組織のみが今日批難、改造の目標となるのは何故であるか、蓋し是れ(a)傍系組織が商品配給以外の經濟行爲を併せなすに反し直系組織は配給其物を以て專業とすること、(b)傍系配給組織の費用は直系組織にある配給機關が自己の名を以て消費者より請求すること、(c)配給上の利潤を收むるものは貨物の所有權を有する直系組織の配給機關たること(a)最近特に直系配給機關の數增加し、直系組織の距離を延長せしめた結果に外ならない。

四

茲に於て吾人は再び交易經濟發達の結果が商業上の仕事を商業上の勞力に比して分量上大ならしめ、其結果は商業組織を變化するに到らしめたと云ふ議論に立ち返つて論を進めることが出來る。則ち以上述べて來た商業の分裂は貨物配給の經過が縱斷的に分たれたものであつて、從つて配給費の上に直接關係を有する配給距離の延長とは全く別個のものである。而して此の配給距離を延長するものは配給經過の縱斷ではなくして橫斷によつて生ずるものである。乃ち以上配給經過の縱斷的分裂を述べた吾人は以下其橫斷的分裂の跡を辿らなければな

ぬ。蓋し此の配給經過の横斷的分裂こそ本論文の主眼をなすのであるからである。

自給自足の經濟が一般を支配して、交換の發達尚幼稚の時には交換其物を以て專業とするには尚仕事の分量が少ない、爲めに商業は兼業として行はれる。然るに交換が發達して來ると之を專業とするも尚充分に人の勞働を利用し得るに到る。交換が益々發達して來ると今度は交換の業務が餘りに甚だしく一經營の勞働丈では處分出來ない、少なくとも有效に行ふことが出來ないやうになる。換言すれば仕事の分量が勞働よりも大となつて來る。此の爲めに各經營が其取り扱ふ貨物の種類を限定して專業化することは以上述べ來つた所である。けれども配給上に於ける仕事が勞働以上に上ぼる此の分量上の不調和を調節するのは必ずしも以上述べた縱斷的分裂のみによらない、尚横斷的分裂によつて之をなすの道がある。而して此横斷的分割の行はるゝに至るのは、之れ亦配給經過を分割し其一をなすも尚よく其經營を維持し得る時、換言すれば交易發達の結果經過の一過程が一經營を動かすに充分の仕事となるに及んで初めて行はるゝものである。

ゾムバルト教授曰く、（註）

Unter den Gründen seiner (des Grosshandels) Entstehung ist die Zunahme der Handelstätigkeit der Hauptgrund: der Strom wurde stark genug, um das Rad eines kaufmännischen Betriebes zu treiben, auch ohne das er aufgestaut werden musste.

（註）Ibid., Bd. II S. 481

然らば配給經過の横斷的分割はいつ頃より始まつたか。本來古代では一般に直接交換が行はれて獨立の商人は存在しなかつた。中世都市經濟時代に於ても尚直接交換が一般的現象であつて、かの所謂都市經濟政策の心髓は實に此直接交換の原則を强制維持して各消費者をして直接生產者より買入れしむるにあつた。而して獨立の商業は主として行商の行つた所で西及び中部歐洲に定住商が一般に擴がり、直接交換の壞はれたのは漸やく十八世紀の終りである。Defoeの云ふ所によれば當時何れの村(Village)少なくとも顯著なる町(Market-town)には到る處商店があつたとのことである。(Tradesman, 827) けれど巴里や倫敦のやうな大都市では勿論中世早く定住商が存在してゐた。けれども中世に於ける此等の商人は卸商

であると同時に又小賣商であつて、卸商と小賣商の區別が存在しなかつたのである。然るに此の卸商と小賣商の兩者が互に分たれて茲に始めて配給組織上の横斷的分割の行はれたことは實に近世の初期に於ける經濟上の一大現象であつたのである。而して此の現象の尤も早く表はれたのは英國で、或る商業に於ては既に十六世紀の終りに卸商と小賣商の分裂獨立を見たとのことである。而して佛國では一世紀後れて十七世紀の終りに此の分裂が行はれた。（註）

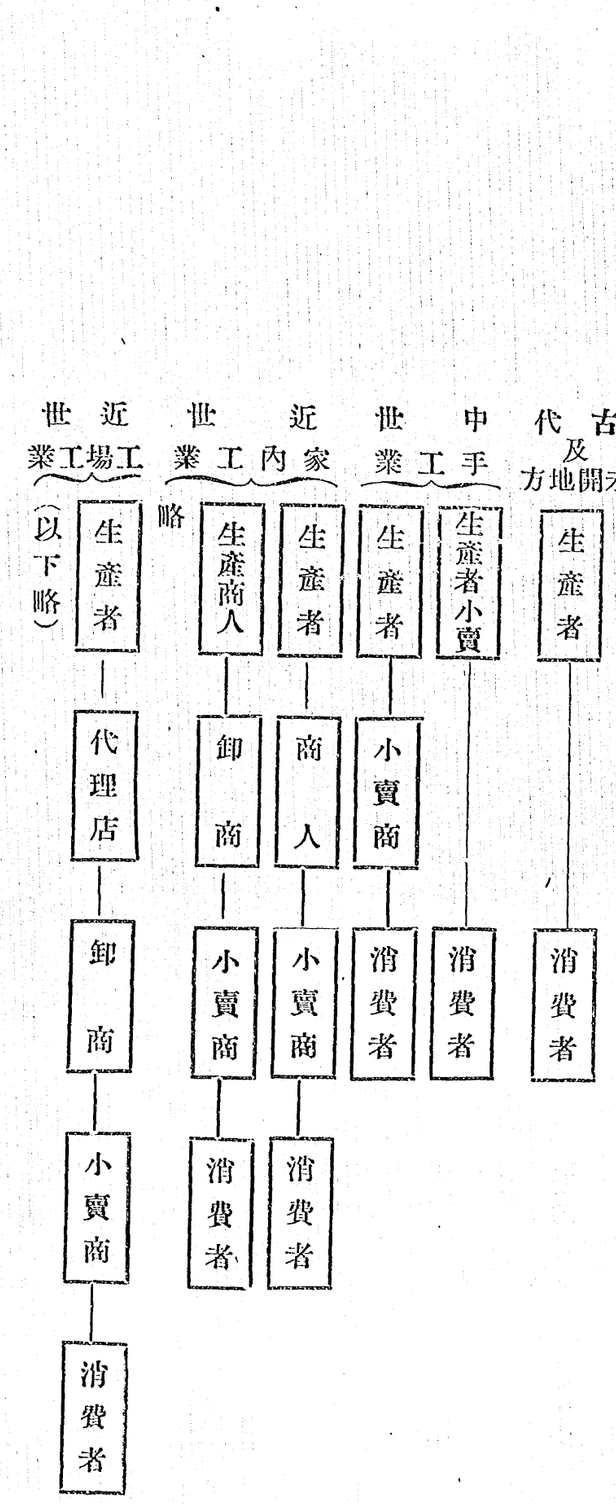
（註）我國には時に commerce を Trade, Merchant を tradesman の區別を誤解するものがあるやうであるから此機會に於て一言したい。英國では Merchant と云ふ語は十五世紀から六世紀への轉換期には凡ての商人を指しゐたもので特に區別する所はなかつた十らしい。故に guild merchant と云ふ時は卸商も小賣商も凡て含まれてゐた。十六世紀に至つて英國の海外貿易が盛んになるや海外貿易商人を示す語として mere merchant（純商人）と云ふ言葉が出で、之に對して內國商業に從事する商人は之を Trade-man と云つてゐた。けれども主として小賣商人（Retailer）を示す語であつた。十七世紀頃からは普通、商人は Merchant（海外貿易商人）、Tradesman（內地卸商人）、及び Shopk eper（小賣商人）に三つに分たれてゐたやうである。

Commerce を Trade の區別も之と同じやうに Commerce と云ふ字は之を Trade と區別して用ふる時は extended trade の意味で大規模の商業特に國際商業を意味し、Trade は國內商業を意味するものである。Prof, Marshall の近著 Industry and Trade の日本の譯者は之を「產業及び貿易論」と譯してゐられるやうであるが、本來國內商業を論じてゐる同著を目本語で對外商業の語に用ひらる、貿易と云ふ語で譯するのは如何かと思はれる。現にマーシヤル教授の本年の出版にかかる新著は前の國內商業に對して對外商業を論じてゐるものであるが、氏は之に Money Credit and commerce の題名を用ひてゐる。

四

斯の如く英國では十六世紀末、佛國では十七世紀末になつて初めて行はれた配給經過の横斷的分裂は、其後交通機關の發達に伴ふ配給區域の擴大、產業革命による大量生產、從つて生ずる取扱分量の增加の爲めに十九世紀末から二十世紀にかけて、益々盛んに行はれ、爲めに消費者と生產者との距離を愈々遠ざかるに至つたのである。而して此現象は絕大なる配給區域と大量生產組織を有する米國に於ても亦特に甚だしきものがあつた。而して左に揭ぐる Shaw 氏の一表は古來より今日に至る配給直系距離の此延長を最も明らかに示すからして左に之を引用する。（註）

（第一表）



而して此の最後の形式は Shaw 氏の云ふ所によれば十八世紀の末葉より十九世紀の始めに於てしたるもので、氏は之を正統配給制度 (Orthodox type of Distribution) と名づけてゐる。

（註）Shaw, Some Problems of Market Distribution, pp. 70, 74 and 69.

けれども配給の組織は Shaw が述べてゐるやうに單に製造者より消費者に到るばかりではない。之等の生産者は其製造の爲に原料及び補助材料を必要とするものである。而して此の原料及び補助材料の生産者と製造工業家を結び付くる組織も亦一の配給の組織である。現に販賣組織に於ける中世の行商に對當する地方購入者 (country-buyer 又は local buyer) なるものは英國では十七世紀から十八世紀にかけて既に著るしく發達してゐたものである。而して此等の商人は田舍に散在する農家を訪ね歩きて彼等より穀物、家畜、羊毛等の農産物を小量づゝ買集め之を地方又は中央市場に運搬し來て販賣するのを職分としてゐたものである。而してかゝる食料品生産者と中央市場又は工場とを連絡する配給經過の横斷的分割も單にかゝる地方購入者丈に止まらず、大量生産と中央市場の規模大となるに從つて更に益々分裂したのである。今 Hirsch 氏に從つて此の原料生産者たる農家から中央市場又は工場に至る經過を示せば左の如し。（一）

農家 —— 購入者 —— 地方卸商(撰別商) —— 中央市場卸商(又は工場) —— 工場。

是を以て見れば直系配給組織は中央大市場又は工場を中心として、(一)先づ原料生産者から中央市場(又は工場)に至る組織と、(二)更に此の中央市場(又は工場)から消費者に至る組織の二つに分つことが出來る。而して前者は之を購入組織(Aufkauf organisation)と云ひ後者は之を販賣組織(Absatz organisation)と名づけることが出來る。而して購入組織にある商業は之を蒐集商(Der kollektierende Handel)と云ひ、農産物を中央市場又は工場に集中するを其職分とし販賣組織にある商業は之を廣義の分配商(Der distribierende Handel)と名づけ、一ヶ所に集中せる財貨を更に各方面に散在する消費者に分配するを其職分とするものである。(1)

(1) Grundriss der Sozialökonomik, Bd. V. Teil 1. S. 74 f.

(1) Schär, a. a. O. S. 102.

之を以て見れば現代直系配給組織は甚だ長き延長距離を有するものであつて、蓋し直接配給運動(Bestrebungen nach direktem Ein und Verkauf)の起る所以である。然らば從來只消費者と生産者との直接交換によつて配給せられた貨物が何故に今日斯の如く多人數の仲間商人の手を經ることを必要とするかと云ふ疑問が當然起つて來なければならないのである。然るに余に寡聞なる此點を中心として試みられた研究はないやうである。配給問題に就ては隨分多數の文献に存在するけれど其大多數はかゝる長き配給距離の延長に驚いて只之を如何に短縮せんかを論議して何故にかゝる配給組織が起つて來たかと云ふことに對しては多く考慮を拂つてゐないのである。彼等は解剖と病理を無視して手術を行はんと試みてゐるのである。而して偶々其理を説明せんとするものあらば(勿論其多くは之を其議論の中心として論じてゐるのではないけれども)則ち現代直系配給組織を分業の理を以て説明することが一般の通説となつてゐるのである。(註)けれども余は此定説に容易に服することの出來ないものである。よし此定説は誤つてゐないとして現代の配給上に於ける直系配給組織の存在を理由付ける充分の根據となすことが出來ないのである。

(註) Schmoller, Grundriss, 2 Teil S. 34.

Schär, a. a. O. S. 112.

Hirich, a. a. O. S. 62.

交通や、荷造、倉庫、廣告などか商業から獨立したのは之れ配給行爲の一職分を盡

くす爲めのものであつて、商業行爲全部を行ひ得る性質のものではない。然るに小賣商と卸商とは何れも皆余が配給上に於ける職分として論じた凡ての配給行爲を行ひ得又普通行つてゐる者で、其爲す所の行爲に特に異なる點あるを認むることは出來ないのである。かの前述の配給經過の縱斷的分裂の原則に從つて呉服と太物が各專門となり、酒商と荒物商が各專業化するのは其市場觀察、品質鑑定等に獨特の技術、技能を必要とるすかもしれないけれども、かの同じく酒を取扱ふ商業の上に需供創造行爲、取扱ひ技術、資金の調節の上に何等の性質上の區別があるか余は之を知るに困しむものである。余の見る所を以てすれば卸商と小賣商の區別は少なくとも現代の配給組織の下にありてはかゝる行爲や技能や職分、換言すれば配給行爲の性質上の相違からして、兩者が並存してゐるものでなくして、實は商業の分量上の差異を節調せんが爲に發生し、且つ存在の理由の存するものと信ずるのである。余は左に然る所以を説明せん。

五

現代經濟社會に於て最も顯著なる現象は集中（Concentration）と云ふ事實である。而して其中で茲に問題になるのは(一)大量生産（Large-scale Production）と(二)財貨が中央市場に集中する（Concentration of marketing）この二つである。

人間社會に於ける物質的財貨の存在量が人間の慾望に比して稀少なる結果として、中世の如き小規模の生産では到底今日の吾人の發達せる慾望を滿足さすことが出來なくなつたのである。茲に於てか此矛盾を調和する爲めに技術的分業を伴ふ器械生産、大量生産と云ふことが絶對的に必要なる社會的事實となつて來た。而してかゝる工業が其所在地を撰定するや多く其原料の所在地、動力又は勞力を得るに容易なる地方換言すれば生産に有利なる地方を撰み、其製造品の配給に就ては之を今日の發達せる商業機關に委し製造業者自からは最早消費の便と云ふ條件にはあまり顧慮しなくなつたのである。而して之等の地方には其地方の生産條件に適合せる工業が集中すると云ふ事實を生ずる當然の結果として茲に又工業生産の集中と云ふ事實が起つて來るのである。

地方的に集中せられた工業の生産物が亦一ヶ所に集中せられ存在するは勿論であるが、更に又食料品其他工業上の加工を經ないで直ちに消費せられる貨物、及

び外國に製造又は精製せられた消費用の貨物等も亦今日必ず一度は國内中央市場に集中せられるの事實がある。

思ふに共同經濟内に於ては假令其間に於て分業の行はるゝも尚且つ生産と消費が合致するのは其經濟内に於ける生産消費が統一的意思の下に行はれてゐる結果に外ならぬ。從つて其經濟内に於て生活を營むものは敢て他人のなす消費又は生産に付き特に之を知悉してゐなければならない事情は存在しない。然るに交易經濟の下に於て生産と消費が分離する結果は生産者は消費の主體、客體、時期を知らず、消費者は生産の主體、客體、時期を知ることが出來ない。而して之等兩者が此種の兩方面に於ける不便を避けんとするには一定の場所に集合して双方相接觸して以て双方に於ける事情を相互に明らかにする機會の存在することを必要とするものである。かの既に早く中世盛んに行はれた市場（Markt und Messe）の制度は即ち貨物配給上に於ける此種の職分を盡してゐたものに外ならない。當時の市場には只地方的に限られたものと、又各地方間、歐洲では國際的のものもあつたが、尚未だ大中央市場と稱する程のものでもなかつた。從つて其取扱ふ商品の分量も今日に比すれば殆んど云ふに足らないものであつた。

然るに近世に於ける耕地面積の增加及び專業的に同一の農産物をのみ生産する結果は其産物は地方的需要を遙に超過し、而して此超過した生産物は其消費を廣く世界市場又は國内全般に求めなければならなくなつた。而して當時發達した交通通信機關の爲に其實行を極めて容易ならしむるの事實を生じた。茲に於てか地方的市場の代はりに全國又は全世界の需要供給者が集合する中央市場を必要とするに到つたものである。（一）

更に又永く保存し又は遠隔地に發送することの出來ない性質を有する日常生活品は成る可く早く之を處分するの必要がある。其結果として成る可く大なる市場を必要とするに到るものである。

斯の如き中央市場發生するに到らば供給者は如何なる種類のものも、何時、容易に需要者を發見し得可く、又需要者は如何なる品質のものにても其市場に到らば其必要とする分量を直ちに手にすることが出來るものである。換言すればかゝる中央市場は（一）如何なる品質の物も（二）必要の分量丈（三）必要の時に容易に賣却し、

又は購入し得ると云ふ配給上の最高理想の爲めに缺く可からざる制度である。此故に學者は此中央市場を以て配給組織に於ける貯水池に譬へるのが普通である。(二)

(註一) Annals of the American Academy of Political and Social science, xxxviii (1911) 319

(註二) Marshall, ibid, p. 251

六

之を以て見れば現代經濟組織の下に於て製造品は技術上からして、其他の品は生產と消費の隔離に伴ふ缺陷を調節する爲めに一地方に集中するは避く可からざる事實となるのである。玆に於て問題となるのは(一)然らは此大量生產に原料を供給し大量取引の中央市場に農產物を賣却する其源泉をなす經營の單位は之に應ずる丈の大經營のものであるかどうか、更に又(二)此の大工業及び中央市場を離れて行く貨物の終局の到着點たる最後の消費經濟單位の大さは如何であるかと云ふことである。然るに吾人は奇怪にも此大量生產及び大量集中の中央市場が前述の如く經濟の發達に伴ひ益〻集中の實を高めて其規模を大にするにも拘はらず。之に材料を供給し、其の生產物を消費する其兩極端に在る經濟單位の規模は前者の集中と反比例的に縮少しつゝある事實を發見するのである。

先づ其最初の物資材料の出發點である農業に就て見るに土地の所有及び經營は工業經營及市場の大となるに反比例して益々小となつて來た事實が歷然として存在してゐるのである。則ち古代中世に於て土地を所有してゐることは其所有者の社會的地位を高め政治的勢力を得るの基礎として認められる形式であつた。而してかの近世に於ける大なる土地所有者は實に此の過去に於ける土地大所有の遺物に外ならないのである。

然るにかゝる土地の大所有は農業經營上の理由の爲め、更に又政治的理由、土地の工業化、都市の成立、工場の發達などと云ふ一般社會的事情のために分割せられて小所有となり、且つ農業は小規模に經營せらるゝに到つたのである。蓋し都市及び工場發達の結果は小區域の地に集約的に耕作するを要する生產物(野菜、果實、小家畜、草花)に對して有利なる販路を生じたると、又家族の副業及び營利の機會を與ふるに到つたからである。何れにしても農業經營は一般的に小經營を利益な

りとする議論が漸く有勢となり、(一部の社會主義者を除けば)又事實に於て歐洲諸國及び米國に於てすらも小經營の增加を見るに到つたのである。(註一)(註二)

(註一) Philippovich, Grundriss, Bd II 1 Teil, 12 Aufl 1920 S. 27-31.

(註二) Seligman, Principles, pp. 334-7

然らば財貨移動の終局の到着地たる家族は如何。これ亦社會の發達と共に益々小となつて來てゐる。遠く古代の數百人を包括した原始的家族制度は之を問はずとするも、近世家族制度以前に存した父系家族 (Die patriarchalische Familie) に於ける家族の數はシュモラーの云ふ所によれば少なくとも十人、又屢々二十人の上を出てゐたのであるが、現代に於ける家族の人員は六人、五人、平均僅かに四人、又は三、二人の國がある、之等現代の家族は最早家庭内に於て生産經營をなさないので、家庭は全く消費の中樞となつにゐるのが普通である。

七

玆に於てか吾人は古へ自給自足の經濟時代に於て整然と合致してゐた生産と消費は交易經濟に入りて分離してから漸時に正反對の傾向を採りて發展し、近世に於て其矛盾は殆んど極度に達してゐるのを發見するのである。而してかゝる矛盾は單に生産と消費の間ばかりでなく、又工業生産と農業生産の間にも生じたのである。而して此矛盾は性質上の矛盾ではなくして、實は分量上の矛盾である。而して此分量上の矛盾は次の三種からなるものである。

(一)生産と消費(生産的消費を含む)の距離が遠く距たる爲めに工場又は中央市場にあるものは農業生産者及び消費者の存在、及び其事情を知ることが出來ない。

(二)原料を蒐集し、生産物を配供する面積が大となる爲め其仕事が一經營の活動能力以上に及ぶ。

(三)中央市場及び工場の取扱分量と農家の生産高及び家庭の消費高との間に物質量の差異の甚だしくなる。

而して此等の矛盾は工業生産の集中、一中央市場の支配する配給區域の擴大と共に、更に又農家及び家庭の單位の縮少と共に益々甚だしくなるものである。

蓋し生産の集中大なれば益々廣く遠くより之に要する材料及び原料を集めなければならぬ。換言すれば益々遠隔の地より集めなければならぬ。特に今日の生産は標準化せられてゐる上に、尙又自己の製品を他人のものより區別する必要

からして之に特別の性質を附與し以て顧客を自己に引付ける必要がある。而してかくして一旦得たる顧客を失はざらんが爲めには常に同一の品質のものを作り出さなければならない。此の爲めには常に同一の原料を使用するの必要が生ずるのである。而して其結果は益々原料を廣きに亘りて求めなければならなくなるのである。此苦痛は特に煙草製造業の甞める所であると云ふ。

而して販賣の方面に於ても亦同一で、製造高大なるに從ひ、或は一手に集中せられる貨物の量大なるに從ひ、益々之を遠隔の地に、益々之を小さく分割して販賣するの必要があるのである。

然り而してかゝる矛盾はこれ歴史的發達の結果である。かゝる矛盾を有して而も尚今日吾人が經濟生活に何等の不便を感せないのは何故であるか。蓋し經濟社會の自然的發達はかかる矛盾を調和する社會制度をして亦自から之と同時に自然的に發達せしめ、此の矛盾を調和し、矛盾をして矛盾たらしめざりし結果に外ならない。然らば此の生産と消費の間に於ける分量上の矛盾を調和してゐる社會制度とは何であるか。即ち曰く配給組織に於ける垂直組織是である。先づ便宜の爲め販賣組織より説明する。

八

今日一つの大工業經營の生産する貨物は數萬數十萬、數百萬を數ふる小經濟單位の消費する所である。例之一煙草製造經營の生産品は全國又は全世界に散在して極めて小量宛を消費する無數の消費者の消費する所である。かかる場合に於て一の經營（企業に非ず）を以てして直接此等の消費者に接觸して彼等の需要を充たすことは既に技術上の理由からして不可能のことに屬するのである。而して余は左に其主なる理由三個を擧ぐることが出來る。

（一）小消費者が全國、全世界に亘つてゐる際一つの大なる經營が一一此等の消費者に其貨物の存在及び其效能を告げて彼等の需要を喚起し、又は其生産を需要に適合せしむる爲めに彼等の欲望の狀態を探知し之に適當する貨物を生産し、之に適當なる蒐集、撰別の方法を考察し、之を實地に行ふこと、換言すれば前述の凡ての配給上の行爲を行ひ、更に又彼等に信用を與ふる必要ある場合には一一此等小消費者の資金信用狀態を調査し、又は掛金を集收するが如き全く不可能のことに屬

するのである。

二、假令消費者が中央市場に於ける製造又は販賣經營者を知り、現金にて之と直接取引せんと欲するも大量を取扱ふものが其何十萬分又は何千萬分の一しか消費せざる者と一一取引し、一一之を包裝し、之を發送するは徒らに勞力費用を大ならしめ、且つ配給費用をして益々大ならしむるに到るであらう。

三、物資が只一ヶ所に集中して消費者との距離の遠い所は、假令交通機關の發達したる今日でも尙大なる時間を必要とする。特に腐敗する貨物は其運送に甚だしき困難を來たす。此故に特に小額宛日常常に必要とする貨物、即時供給を必要とする食料品、藥品等の如きは出來得る限り消費者に接近して貯藏せられてゐることを要するのである。

然らば大販賣をなす製造業者及び中央市場に於ける大商人は如何にして生産と消費との間に於ける此の空間的時間的矛盾を避くることが出來るかと云ふと、それには此大製造業者又は大商人の當然なす可き仕事を數百又は數千の小經營の間に分割することを必要とする。換言すれば其消費全面積を多數の小經營の間に分割すること、猶內務省が全國を多數の小地域を分割し町村をしてなさしむると同じくすれば一般に行き亘ることが出來るのである。かの廣大なる牧場の草を刈るに際し、其面積を小さく區分し、多數の者をして各一面積を分擔して刈らしむるが如き亦此原則に基くものである。則ち斯の如くすれば各小經營は中央部に於ける大經營に代つて、其小地域に在る消費者に對して、貨物に對する需要喚起行爲調節行爲、契約、純技術上の行爲より、信用調査資本回收に到る迄充分の注意と細心を以て完全に所謂配給上の全職分を行使することが出來るのである。而して消費者は何時と雖も必要に應じて其附近の店舗にて需要を充たすことが出來るのである。

然るにかかる小經營は大都市には數個又は數十、各町村にも亦數多存在するけれども、而も之を其消費者の數に比すれば其數は甚だしく減少してゐるものである。けれども工業生産の規模大となり、中央市場の包括する配給區域の大なる場合には工業經營又は大中央市場の卸商が之等の小賣商と一一取引するには尙且其程度こそ異なれ、消費者を一一相手とすると同種類の分量上の矛盾を生じ、一一

此等多數の小賣商を相手にして取引することが困難となるものである。然るに此困難は更に此の生産者又は中央市場の大商と小賣商業との間に中間配給の機關、即ち卸商を配置し、此卸商が全國又は全世界の地域を分割し、其分割せられた地域内にある小賣商業に對して配給上の行爲、職分を行はしむることによつて除去し得るものである。換言すれば數多の卸商が協力して小賣商業に對して一生産物の配給を司るものである。

けれど生産が益々集中せられ、其消費地域が愈擴大する場合には生産者は凡ての卸商に對して尙且つ完全なる配給行爲を營むことが出來ないやうになる。茲に於てか更に又生産者と卸商の間に代理商なる一配給機關を生じ、之が更に地域を分割し、其地域内にある卸商に對して生産者のなす可き配給行爲と職分を行ふやうになるものである。要之代理商と云ひ、卸商と云ひ、小賣商と云ひ其成す可き配給上の行爲及び職分に何等特別なる性質上の相違が存在するのでなく、只生産者のなす可き配給區域が餘りに廣大にして、且つ距離遠く、其消費分離が生産高に比して餘りに小なる爲めに、其區域を分割して各自の擔任範圍を小にし、以て仕事の分量を少くせんとする結果に外ならないのである。而して其結果は則ち上下垂直の組織となつて表はれ來るものである。而して此關係は猶一師團に於ける師團長と兵卒の關係に譬ることが出來るものである。前者は生産者で、後者は消費者である。師團長は全師團數千の歩兵卒を動かさんとするに一一兵卒に付て號令をなし、訓育をなすことは出來ない。茲に於てか少數の兵卒を組み合はせて數個の小隊となして各隊長其一部分を受持ち、而して此數小隊を合して中隊として各中隊長をして之を分擔統轄せしめ訓育其他凡てことを行はしむる。更に此中隊三つを合して大隊となして大隊長之を統べ、三大隊合して一聯隊として聯隊長之を統べ、二聯隊を合して一旅團とし二旅團合して師團となして初めて師團長之を統べかくして其號令が全體に行き渉るものである。只師團には歩兵の外に各兵科の別ありて作業を異にするものあるも訓育の點には差別はない。配給行爲には卸商たると小賣商たるとに於て職分上の差は存在しないのである。（註）

（註）此種の勞働組織は固と仕事と勞働の分量上の相違から來たもので分業の原則に基くものではない、從つて Büsher の勞働組織から云ふならば當然勞働協同 Arbe-

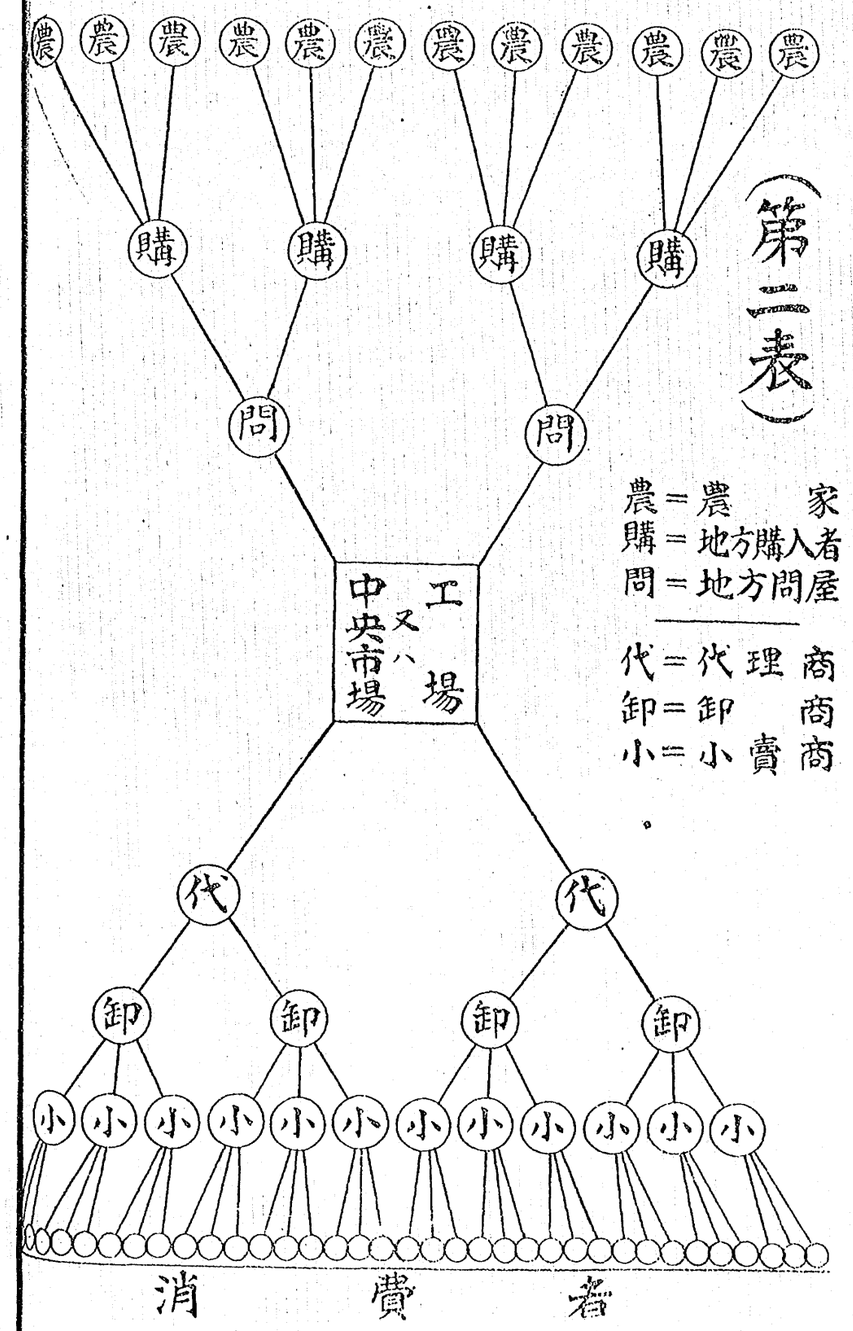
Eigengemeinschaft に該當するものである。然らば其中何れに屬す可きやと云ふに以上述べた配給組織は其儘では氏が其例として擧げてゐる三種の中の何れにも該當するものはないやうである。強いて云はば Arbeitsverbindung に屬す可きか。現に氏は其例として軍隊（Truppe）を擧げてゐる。けれども軍隊は兵科、作業の別があり、又統一的意思の下に動くものであるが、今日配給組織の大部分はそうでない。けれども社會全體から見れば換言すれば社會的勞働の組織として之を見れば、かかる目的の存するものと見ることが出來る。況んや大企業の下に於ける配給組織には統一的意思の下に行はれるものあるに於てをや（Bücher, Entstehung der Volkswirtschaft. 16 Aufl. (1922) S. 282 ff.

九

以上余は主として販賣組織に就て述べたものであるが、既に原料生產者たる農業經營が益々小規模となり、之を原料とする工業が大規模となる以上は以上述べた販賣組織成立の原理は移して以て直ちに購入組織成立の原則とすることが出來るのである。殊に今日の工業は專業化し、同一品質のものを製造する上に、其使用する大固定資本を充分に利用する必要からして、又今日の大量生產は品質の等一せる大量の原料を必要とし、且つ規則正しく供給せられることを要するのである。此結果は益々遠隔の地方に散在せる小原料生產者の生產物を買ひ求めて來る必要が生じ茲に前に掲げたやうな距離大なる直系組織を生ずるに至るものである。

之故に購入組織も販賣組織も共に扇の形をしてゐるもので、而して兩者の連續たる全直系配給組織は二つの扇の要を連續したる如き形をなすものである。之を圖示すれば大體次の如くなる。（第二表參看）

一生產と消費と云ふ自然的二大事實が社會的に分離せられて存在してゐても、其間に何等之に伴ふ缺陷を生じないのは今日の經濟組織の下に於て此生產と消費とは蜘蛛の巢の如くに張られたる配給組織の網によつて相互に連續せられてゐる結果に外ならない。之を譬へば今日の配給組織は猶ほ生產と消費と云ふ二個の水槽の底を連絡するパイプのやうなもので、一方の方面に於ける水量の變化は直ちに他の槽に通じ兩者常に相平均して齟齬なきを得るものである。かかる配給の組織あるによつて吾人は其必要とするものは何物と雖も容易に之を手にすることを得。社會に存在する貨物は何人の生產にかかるを問はず容易に其存在を知ることが出來るのである。吾人若し深夜急病に襲はれて附近の藥店に走りて、商店主に病苦を訴へんか、彼は直ちに吾人の未だ嘗て知らざる生產者の製造にかか



（第二表）

農＝農家
購＝地方購入者
農購＝農購屋
問＝地方問屋
代＝代理商
卸＝卸商
小＝小賣商

る、又吾人の知らざる藥物を與へること尙太古自給自足の經濟を營む家長が必要に應じ直ちに必要の品を其家族に與ふると毫も異なる所はないのである。斯の如くして交易經濟社會にあつて尙よく自己經濟の實あらしむると云ふ配給組織最高の理想は到達せられるのである。

かかる配給組織が國民經濟上に及ぼす影響として尙一つ看過す可からざる事は供給の彈力性を增加することである。今日吾人は如何なる地に在るも其必要とする財貨は之を即時又は數時間に得ることが出來る。萬一其地にない時は二三日もすれば他の更により大なる地方的市場より取り寄せることが出來る。尙此處にもない時は大中央市場より其の補充を受くるの道が開かれてゐるのである。而して此の中央市場には各生產地より小量宛の財貨を買い集め來て一ケ所に蒐積し、何時之を必要とする地方に發送出來るやうな準備が出來てゐる。而して此便宜に對して地方市場は中央市場に對して確實なる販路となり双方相俟つて完全なる財貨流通の通路を開いてゐるのである。消費者、地方市場、中央市場にかかる關係があり、一地方の供給の不足は中央市場の物資蒐積力によつて補充せ

られ、爲めに地方的には比較的小量の物資しか存在しなくとも尙よく確實に不斷給をなすことが出來るのである。かのマーシャル敎授が中央市場の配給組織にの供對する關係は貯水池と云ふよりも寧ろ Flying wheel と云つた方が適切であると云つたのは極めて至當の言と云ふ可きである。（註）

（註）Ibid, p. 251

斯の如くして、經濟の發達尙幼稚で商業と云ふ仕事が一人の勞力に不足する時代には兼營として行はれ、商業勞働の量が大となるに從つて、獨立の業となり、更に大となりて縱斷的分裂（專業）を生じ、生產と消費の兩組織の逆行的發展の結果愈々商業勞働の量大となるに至つて茲に橫斷的分割則ち直系配給組織を生じたものである。共に交易經濟發展の結果に外ならないのである。

一〇

古代の自給自足經濟が壞はれて生產と消費が分離し、而して此分離したる生產及び消費經濟を司る經濟單位の大さが反比例的に發達した爲めに茲に生產相互間及び生產と消費との間に分量上の矛盾が生じた。而して現代配給組織は此の分量上の矛盾を調和するを職分とするものであるからして、今日の經濟組織の存續する限り之を除去することの出來ないものである。而して此除かんとするのは猶一人の力を以て千貫の石を他に運ばんとするものであつて其不能なるや言を俟たないのである。只茲に注意しなければならないのは、(一)かかる配給上の職分及び之を行ふ組織と、(二)此組織內にある財產權の所在及びかかる組織を動かす精神とは兩者全く別個のものであることである。而して余が現代配給組織は之を除去し得ずと云ふのは配給上の職分及び之を行ふ組織は之を廢止することが出來ないと云ふのでかかる組織を獨立の商人が資本主義的精神を以て動かそうが、或は又產業組合が共同利益の精神で動かそうが配給上の職分及び組織其物には何等の變化を見ないのである。今日生產業者又は消費者が自ら配給行爲を擔當し、獨立の商人を除去せんとする運動が盛んであるけれども、彼のなす所は只從來商人のなしたる所を自ら之を行ふ意味で、現代配給組織には毫末の變化をも生じてゐないのである否彼等のなす所は從來獨立商人のなしたる所を眞似てゐるに過ぎないのである。而して現代經濟組織の維持せらるゝ限りかかる配給組織

の運用は之を何人が擔當するも、以上余の述べた配給理論は實際配給の上に於て必ず應用せられなければならぬものである。此點を明かにするものとして余は茲にカリフォルニア果物生産業者組合（California Fruit Growers' Exchange）の現に實行してゐる配給組織を茲に簡單に叙述して見たい。

此組合の組合員の生産するものは所謂 Citrus fruits で、其主なるものはレモン、オレンヂ、グレープフルート及びシトロンである。此種の果物が近世配給組織の代表的なものであると云ふのには理由がある。則ち米國のやうな廣大なる國土でも之程の果物を生産する地は殆んどカリフォルニアとフロリダに限られゐる有樣である。然るに其消費地は合衆國加奈汰全部を包擁する擴大なる販賣區域を有するからである。

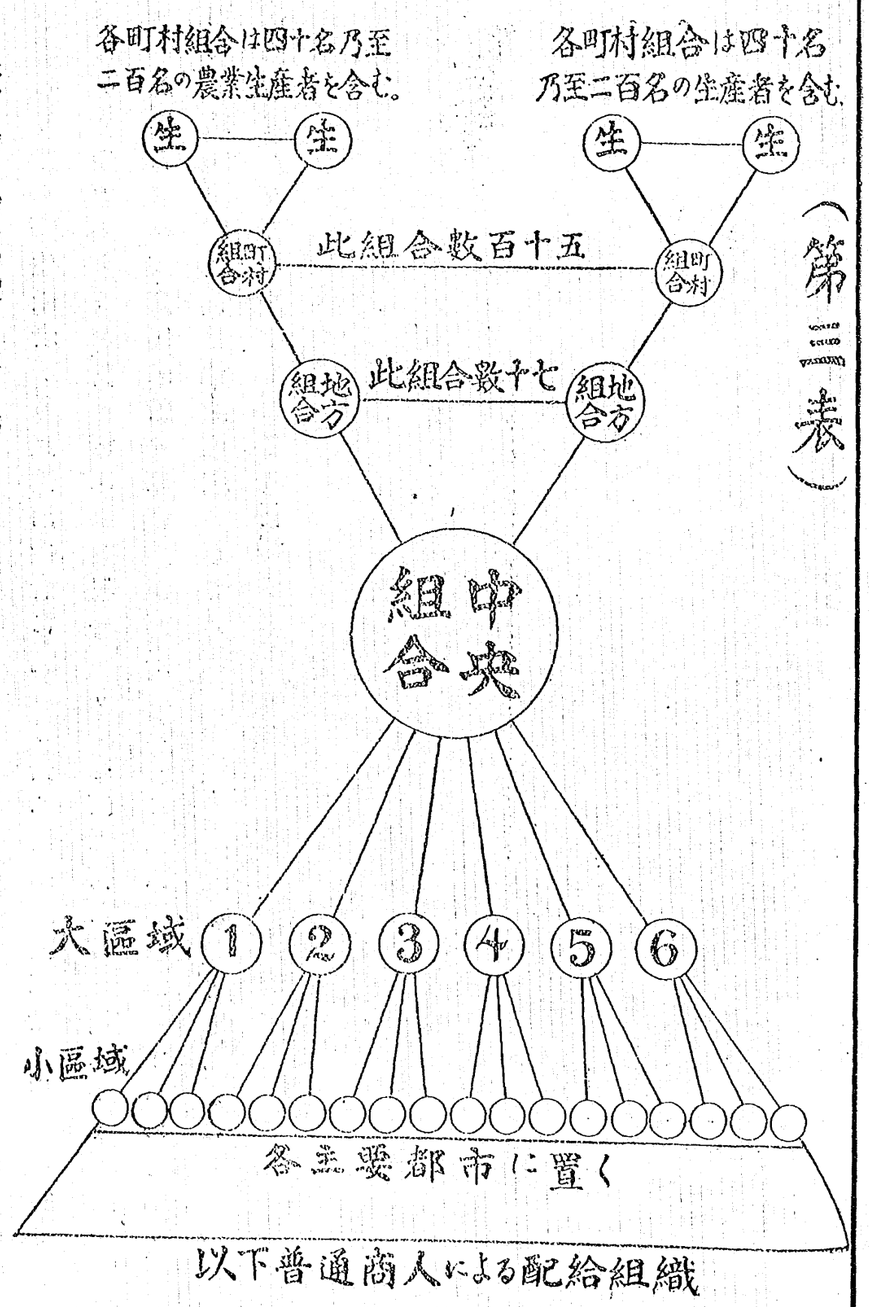
此組合組織以前には之等の土地の生産物は勿論 brokers, commission Merchants, Jobbers, Soliciting Agents, local buyer 等の獨立の商人の手を通じて各方面に販賣せられてゐたものである。然るに配給費の大なると（當時は消費者の支拂ふ代金の半額以上は販賣の費用であつた。）且つ委託販賣をなす問屋の仕切狀が信頼す可からざるものであつた爲めにカリフォルニアに於ける農業者は相集つて一つの産業組合を設置し、自ら販賣の事に當るに到つたものである。

此組織は一つの中央組合（Central Exchange）、十七の地方組合（districts Exchanges）、百十五の町村部組合（local associations）から組織せられてゐるものである。此の最下級にある町村組合は各四十名乃至二百名の農業者を組合員とするもので、合計では約八千名の生産者を含むものである。而して此のカリフォルニアの各地方地方に存在する八千名の農民の生産する果物は上述の組織によつて一應中央市場則ち中央組合に集中せられるものである。少なくとも中央組合の自由意志の下に販賣せられるのである。則ち之等の農民の生産物は最初は一應町村組合の管轄にあるものである。此町村組合からは代表者を地方組合に送り、此組合が其の管轄内の町村組合の生産物を管轄する。而して此の地方組合は各一名の重役を中央組合に送る。而して此處には此十七名の重役によつて選擧せられた一名の總支配人がゐて、凡ての事務を切つて廻はすのである。而して茲に十七の地方組合の全生産物が統轄せられるのである。則ち以上の組織は正に上述の購入組織に

該當するものである。斯の如くして一應中央組合の支配下に來た凡ての生産物は全部中央組合の手によつて販賣せられるものである。此を全國に販賣する爲めに其全販賣地域の面積を六區域(territorial divisions)に分割し、各一區域に一名の販賣主任(Sales Manager)を置く、而して此大區域は更に之を地方區域(Districts)に分割し、其本部を其地區の主たる市に置くもので、殆んど凡ての主要なる市には地方主任(districts manager)が駐在してゐる。而して中央組合から來た貨物は順を經て此の地方主任の手許に來たり、それから其地の卸商に販賣せられ普通の商人の配給組織によるものである。則ち以上は前述の販賣組織の原則によるものである。今之を圖示すれば左の如し。(第三表參看)

讀者若し此表を第二表(第九二頁)と參照せんか自由交易經濟組織の下に自然的に發達せる配給組織も又生産者が仲介商人を除く爲めに統一的意志の下に計畫したる配給組織も其原則に於て正に符節を合してゐるのを見るであらう。蓋し是れ今日の配給組織は仕事と勞働の分量上の不調和を除去すると云ふ余の說の眞なるを示すものではあるまいか。

（第三表）



果して然らば生産者から直接消費者に到ると云ふ所謂直接配給は絶對に行はれないものであらうか、萬一行はれる場合ありとせば如何なる原則によるものであるか、換言すれば直接配給の原理及び其限度如何と云ふ問題が生ずるのである。而して此問題は「社會的勞働組織としての配給組織」の其三（結論）として更に稿を改めて論述することとする。（一九二三、一一、一三）

羅馬に於ける社會闘爭と社會思想（二）

高橋誠一郎

七

貴族を强要して法律の公布を行はしめ、當時國内に於ける最高機關たりし十大官職に選任せらるゝの資格を少くとも形式上に於て確保せることは平民に取つて大なる成功であつた。然し乍ら十大官職の廢止並びに執政官職及び護民官職の再興は平民階級の權利を伸長し、國内に於て相爭ひつゝある兩階級の和解を有效ならしむる上に於て一退歩と稱せざるを得なかつた。政治的闘爭は依然として其の激烈さを續けて行く。

紀元前四百四十九年、護民官職再興の後幾許もなく、平民の特權は執政官ヴァレリアス及びホレーシアスの提議に由つて百人組議會を通過せるLeges Valeriae et Horatiaeに依つて確認せられた。斯法の一を以て爾後前述のplebiscitaが全人民に對し